

### 大阪駅(うめきたエリア) 閉業

報道等でも発表の通り、三月十八日にうめきた二期地区に新しい駅「大阪駅(うめきたエリア)」が開業します。

計画発表当初は「北梅田駅」と呼ばれていましたが、JR大阪駅と直結になる事が発表されてからは、大阪駅(うめきたエリア)と呼ばれています。梅田の中心地に新駅が出来るのは、昭和四十二年(一九六七)に、大阪メトロ谷町線の東梅田駅が出来て以来となり、実に五十六年ぶりの事です。

(地下鉄東西線北新地駅も含めれば二十六年ぶり)

この新しい駅では、新式のホームドアである、フルスクリーンホームドアが採用され、車種、編成によって扉数や、位置の違う車輛であっても、ホームドアがフスマのように動いて、乗降者口に合わせてというもので、世界初の試みとなります。また、顔認証による改札機や、スマートフォンと連携して「その人が検索した場所」をリアルタイムで反映表示させる次世代案内システムも導入されるとの事で、非常に近未来感あふれる駅となるようです。

さらに、八年後の令和十三年(二〇三三)には、新駅を経由する「なにわ筋線」が開業予定となっており、新たな大阪の南北軸が生まれる事に加え、さらにこの路線はJRの他、複数の鉄道会社の連携により、新大阪から閑空までを繋ぐ路線ともなり、海外からの観光客を梅田に導く太い導線となる事が期待されています。

この新駅のある、うめきた二期地区は、「グリーン大阪」という名称となる事が、先般発表され、大きな公園を持つ空間が、来年、令和六年(二〇二四)に一部先行開業されます。その翌年には大阪万博も開催される事から、これからの数年、梅田は目の離せない街となりそうです。

### 茶種守の授与

本年も天神さまと茶屋町に縁深い、菜の花に因んだ、イライラ封じの御守、「茶種守」を二月二十五日から四月上旬までの期間限定で授与いたしております。荒む心を宥ね(菜種)、気持ちよく明るくする事を祈念した開運の御守です。茶屋町の御旅社でのみ授与致します。

※土日十三時〜十七時であれば確実に授与ご対応可能です

### 神社豆知識 (賽銭箱)

神社にお参りする時、本殿前の賽銭箱にお賽銭を奉納するというのは、今では普通の光景となっていますが、古代、貨幣が一般的で無かった時代は、神様へ感謝を捧げる為のお供え物は、御米等の食べ物他、布帛、馬など物品でお供えされる事が一般的でした。また当時は、こうしたお供え物を捧げる行為そのものが「被え」であるという考えがあったようで、『古事記』などにもスサノヲノミコトが、贖罪の品々を差し出したという説話があります。

これが貨幣に変わったのが、室町時代頃と見られており、神奈川県鶴岡八幡宮に天文九年(一五四〇)、「散銭櫃」なる箱が設置されたという記録があり、現時点ではこれが最古の賽銭箱の記録と見られています。恐らくこの頃から、徐々に庶民にも貨幣経済が浸透していった一つの証拠といえそうです。

その後、各地の神社にも賽銭箱が普及しましたが、同時に賽銭泥棒も出てくるようになったようで、江戸時代には、賽銭箱に格子が設けられて、盗めないような工夫が施されるようになり、また材質も頑丈なケヤキが用いられ、今のようになりました。

現代、電子通貨の普及と、銀行への硬貨の大量預け入れに手数料が発生する等、貨幣のお賽銭が神社にとって負担になりつつある事から、賽銭箱が見られる時は実はあつと僅かなのかもしれない。

### 今月の暦

【御旅社授与所(茶屋町) 御朱印平日受付日】  
三月二十三日(木) 十三時〜十七時の予定

#### 【祭礼】

上巳被(三日)：神事のみ ひなまつり  
春季皇霊祭(廿一日)：神事のみ。祖先崇拝。豊後祈願  
茶種御供(廿五日)：神事のみ 御旅社

#### 【節気】

啓(廿一日)：冬籠りの虫が目覚めます頃。菖焼き  
春分(廿一日)：昼夜等分の候

#### 【雑節】

春の社日(廿一日)：産土神を詣でる。ポケ封じの御縁日  
春の彼岸(三月十八日〜三月廿四日) お墓参り  
旧初年(一日)：旧暦のお稲荷さんの縁日。商売繁盛

#### 【大安】

三月一日、七日、十三日、十九日、廿五日、卅一日

#### 【朔望】

満月(七日)、下弦(十五日)、朔月(廿二日)、上弦(廿九日)

#### 【祝日】

春分の日(廿一日)

#### 【旬】

【野菜】 菜の花、山菜類、ひじき、アスパラガス、空豆  
【果物】 イチゴ、キウイ、中晩柑橘類、  
【魚介類】 ホタルイカ、タイ、ハマグリ、ニシン、イカナゴ  
【その他】 菜の花、ツクシ、牛乳、マッシュルーム

### 網敷天神社SNS、地図サイト

